

周防本郷・周防本谷	昭27・6・1開業
河山鉱山・周防本山	昭28・2・1
高根線 下出市・周防宇佐	昭23・2・20
上須川・石見田野原	昭31・6・21
高根・高根大原	昭32・2・15
高根・向峠	"
蔵木線 六日市・石見田野原	昭23・2・20
石見田野原・初見	昭25・11・11
高尻線 上七日市・上高尻	昭26・5・11
上高尻・折元	昭31・6・21
梶谷線 柿木・梶谷	昭26・5・11

3 営業範囲 岩国・日原間は旅客・手小荷物および貨物を、その他の区間は旅客・手小荷物の取扱をしている。なお団体貸切は沿線に発着する旅客にかぎり取扱っている。

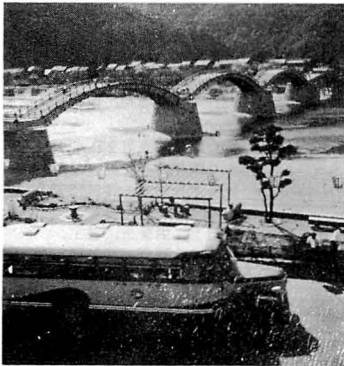
4 使命

陰陽連絡および鉄道先行の使命を有する。

5 特長

地方の交通網を整備し本線支線合せて357kmにおよぶ長大路線である。

沿線の名所としては安芸の宮島、岩国の錦帯橋があり、また冠高原、高根高原は新緑、スキー場として有名である。(可野虎男)

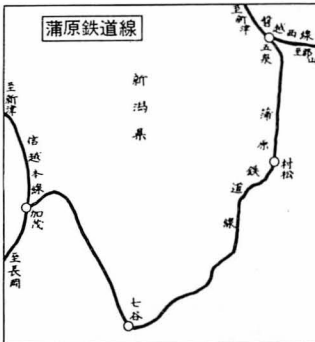


錦帯橋

かんばらつてつどう 蒲原鉄道

1 事業者の概要

名称 蒲原鉄道株式会社、本社 新潟県中蒲原郡村松町、資本金 1,600 万円、おもな事業 地方鉄道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線 56 km および一般貸切旅客自動車運送事業。鉄道従業員 124 人、保有車両電気機関車 1、電動客車 6、客車 3、貨車 8 両。当地方産業の中心地村松町と磐越西線五泉駅および信越線加茂駅とを短絡する目的で、大正



11・9 資本金 25 万円の蒲原鉄道株式会社として発足し、大正 12・10 営業開始現在に至る。

2 地方鉄道線

開業線 新潟県下の磐越西線五泉駅および信越本線加茂駅に連絡し、五泉・加茂間 21.9km の単線、動力は電気、軌間は 1.067m、旅客および貨物運輸の鉄道で、大正 9・1・29 五泉・村松間の免許を受け、同 12・10・20 運輸開始し、その後逐次延長し、昭和 5・10・20 加茂まで全通した。

3 沿線の観光地

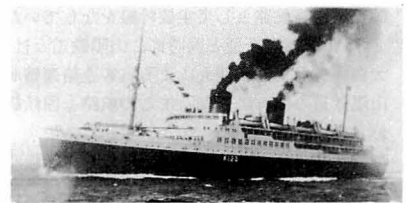
早出溪谷、仙見溪谷(村松駅)、大沢鐘乳洞(西村松駅)。

4 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	1,499	1,529	1,591
人キロ(千)	8,393	8,613	8,900
貨物輸送トン数(千t)	20	19	19
トンキロ(千)	102	90	86
旅客収入(千円)	28,151	28,960	30,086
貨物収入(〃)	4,625	4,073	3,952
運輸雑収(〃)	380	381	458
収入合計(〃)	33,156	33,413	34,496
営業費(〃)	29,786	28,818	30,529
営業利益(〃)	3,370	4,596	3,967
営業係数(%)	90	86	84

(志村幹雄)

かんぶこうろ 関釜航路 本州の最西部下関と対馬・朝鮮両海峽を隔てて南朝鮮の釜山を結ぶ航路で、かつては朝鮮、満州および華北に連絡し、かつ亜欧大陸に通ずる国際幹線をなす国鉄所管航路中の最主要航路であったが、戦後は稚泊(稚内・大泊間)博釜(博多・釜山間)航路とともに閉鎖を余儀なくされて現在では休止中である。



金剛丸(関釜航路に就航していた旅客船)

この航路は明治 38・9 山陽鉄道株式会社の付帯事業として開設されたもので、明治 39 年鉄道国有法の実施に伴って、山陽鉄道とともに国鉄に吸収されるに至り、国有後は政治・経済および軍事的にも重要航路となり、輸送要請に応じて配属船舶も逐次増強され、終戦直前には金剛、興安、天山および崑崙の 7 千t級の時速 23.264 ノット、日本商船中の最強速力を有する豪華連絡船 4 隻、徳寿、昌慶の 3 千t級の旅客船 2 隻、老岐、対馬の貨物船 2 隻が就航していた。→鉄道連絡船。

参考文献 山本熙著 日本鉄道連絡船史。(今留光国)

かんべきしやうりょう 岸壁使用料 けい船岸壁を使用する際に船舶から徴する使用料金。国鉄ではその所属の岸壁を国鉄以外の船舶が使用する場合には、その船舶から下記のけい船料金を収受する。なお使用料を収受している鉄道岸壁には小樽築港、室蘭、戸畑および若松の各駅所属の岸壁がある。

1 小樽築港および室蘭

- (1) トン数または石数をもって積量を表示する船舶(機帆船を除く)
 - 24 時間まで 総トン数 1t または 10 石につき 2 円
 - 24 時間をこえて 8